



\*\*\*\*\*

## ◇『「研修見学会」につきまして』

副本部長・研修副委員長 芋澤 勝宏  
〔台東支部 ㈱葛飾物流〕

台東支部㈱葛飾物流の芋澤です。

ロジ研の中では多分最年少の部会員ということで今回ひびきに掲載させていただきました。

研修見学会自体も初参加でして、研修委員会のお兄様がたに企画はまかせっきりで大変申し訳なく参加させていただきました。

研修先は羽田空港にある日本航空株式会社。皆様 JAL でおなじみの空運業者さんにお世話になりました。

11 時半に羽田空港第 1 ターミナル太陽の塔に集合の後、パイロットや客室乗務員の出勤時についての説明を受けました。まず出社の 5 時間前に自宅や渡航先のホテルで会社より支給されているアルコールチェックをオンラインで行います。この時にアルコールが検出されてしまったらその時点で出社することを禁じられます。これには、研修に参加されたお兄様も大変驚いていました。

多分たいていの皆さんは、アルコールが残っている時間です。

そして、出社後に仮検査をして本検査となり、全ての検査で当たり前ですが、アルコール 0 となりようやく勤務につけるそうです。これだけ厳重に行うのには理由もあり、当然多数のお客様の大切な命を

預かっていると言う事が一番ですが本検査でアルコールを感知してしまうと即国交省に報告する義務が生じるそうです。我々の業界もアルコールを検知することはあつてはなりません



んが報告義務はないと思います。各社での対応となりますよね。このような事で陸運業者よりしっかり厳しくなっていることに驚きました。

その後、モノレールで整備場駅に移動して JAL スカイミュージアムに行きました。

JAL の歴史を展示するとともに、やはり一番重きを置く日本航空 123 便墜落事故についての説明や映像、当時の JAL の皆様のお気持ちや亡くなった遺族の方々の想いを聞きました。

また、数々の遺留品や機体の一部を見学しました。事故の原因は修理ミスと整備ミスにおけるヒューマンエラーだと。それを他人、他社のせいにするのではなく全て自分たちの責任のだと説明していただきました。

参加を終えて自社と照らし合わせ、当然朝夕のアルコールチェックはしていますし、検知なしで運行はしていますが、事故は運転手のせいになっているなあと一人で思いました。そうではなく事故の起因をもっと突き詰めて、事故を起こさないために会社として従業員に伝えることを増やそうと思いました。

今回参加させていただき大変有意義な時間をありがとうございました。

## ◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 3/23 (木) 15:00～ 正副本部長会議・幹事会合同会議  
(東ト総合会館 7 階大会議室)
- " 15:30～ 物流政策勉強会 ( " )

## ◇『編集後記』

副本部長・広報委員長 中村 克敏  
〔城東支部 ㈱中彦運送〕

広報担当の中村です。

日頃は、ロジスティクス研究会の広報誌「ひびき」をご愛読頂き、誠にありがとうございます。

去る 2 月 13 日にロジ研正副本部長会議が開催され、その後の本部連絡会で東ト協、紅一点の原副会長をお招きして、貴重なお話を伺いました。

お話の初めに「ロジ研さんには強いエネルギーを感じる」とおっさんたちに、嬉しいお褒めのお言葉を頂戴致しました。

女性部に関してのお話を伺い、女性部の部員の減少、高齢化を大変気にされており、逆に全日本トラック女性部会の若返りの変化を感じていらっしゃるのお話でした。

また、女性進出促進のご担当というお立場から、女性ドライバーへの思いを強く持たれ、実際の女性ドライバーの実働人数の実績が見えてこないことに関しての不安を感じていらっしゃいました。

また、コロナ感染拡大により、人と人のかかわりの活動が停滞してしまっている事への懸念を強く感じられているようでした。

先にも記しましたが、東ト協紅一点の原副会長の熱い思いをお聞かせ頂き、我々ロジ研のおっさんたちも、女性部さんと協力しながら、強いては、青年部さんとの三組織での活動を活発にしていきたいと思いました。

そして今年の三組織合同研修会において、フジテレビ系の「めざまし 8」において「気になるお天気」をご担当されている「天達武史」さんをお迎えしての講話を頂きました。

講話の内容について記事にするには、許可が必要なので控えさせていただきますが、「あまたつ様」の穏やかな人間性を痛感し、朝は日本テレビからフジテレビにチャンネルを変えようと思いました。

2 月 15 日のロジ研研修見学会において、38 年前に御巢鷹山の尾根に墜落した日本航空 123 便の事故の詳細説明や残骸、乗客の皆さまの遺品などを拝見しました。

飛行機に乗っていると、何度か経験のある乱気流による大きな揺れを体験したことがあると思います。

一瞬の揺れでも恐怖を感じるのに、30 分以上もものすごい揺れの中で過ごされた乗客の皆さんの思いを感じ、本当に胸の締め付けられる思いを致しました。

酷い揺れの中で、家族にしたためた父親のメモや無事に着陸した時に案内をする手順を書いた CA さんのメモ。墜落時刻を刻んだ腕時計等。

安全神話って本当にあるのだろかと思う時間でした。

我々トラック事業者も、安全は永遠に続くものではなく、一人一人が日々、一秒一秒築き上げていくものだと、改めて痛感した体験でした。

この貴重な素晴らしい研修見学会を企画してくれた、前田委員長、武井さん、岩田さんに感謝です。

さて、今週からロジ研メンバーは台湾への海外研修に行つてまいります。

珍道中になる事間違いない!

次回、楽しいご報告をさせていただきます。